（三日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭日第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料　（一行卅錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

早老する勿れ

小田部莊三郎

最近、私は我が同胞について悲しむべき一現象を發見した。それは我が同胞の體質が甚だしくたい化しつゝあるといふことである。私の見る所では彼の歐洲大戰直後における ドイツ國民即ち、五ケ年間にわたる食糧欠亡よりいちゞるしく榮養不良に陷り、剩へ戰に破れた彼等よりもわが同胞の健康狀態は劣つてゐるやうである。しかもこの印象は私にのみ與へられたものではないのである。

體質のたい化は一方から觀察すれば老衰であり早く老衰するから早く死ぬといふ定義もなり立つのである。世界一等國民中わが同胞の平均年齡が一番短いといふ主なる一原因もこゝにあるのである

こゝで私は消極的長壽法を說かんとするものでない。いかにせば長いばかりでなく、幅もあり厚さもある立體的生命、即ち氣力において體力において靑年期にほとんど劣らない生命を、老年期の終りまで維持することが出來るかといふ積極的長壽法について講究せんとするのである

現在まのあたりに展開されつゝある、世相の一面を描寫して見ればどうであらう。今が働き盛りの年輩か見受けられる男子で、白髮もなく、少しのはげもなく眼鏡もかけず、かつ立派な健康美の所有者と思はれるものは、れう〱たるものである。これと反對に細い骨格にあをい顏をして白髮もあり、はげもあり眼鏡もかけ剩へとがつた精神を色あせたしなびた皮で包んで居るかのやうな格好の人々は可なり見受けられるのである。

たゞに外觀ばかりでなく精神的にも體質的にも彼等の多くは最早彈力性に富んだ靑年期の面影をとどめて居ない、例へば彼等には歐米人にとりては日常茶飯事に等しい一日二百マイルのドライブとか、あるひは日歸りの富士登山などを、靑年期における暴擧とアッサリ片付けて仕舞ひ、これを一日の行樂として、あるひはスポーツとしてあるひは樂さんとする氣力もなくまた實際の體力もいつの間にか失つて居る。年は若くも腦も血管も將に硬化せんとして居るかのやうに見れる

現代人は日常の生活樣式を改善して、モット自然に歸へらねばならぬ。モツト土に親しみ、空氣に親しみ、日光に親しまねばならぬ。本篇の主眼とするところもまたこゝにあるのである。

然るにも拘らず自分の早老性を全部遺傳によつて解決せんとする實に都合のよい解決法である彼等はいふ自分の祖父は白髮とく頭であつた、自分の母は近視であつた、だから自分はそれを遺傳されたまでゞあると時には曾祖父母まで擔ぎださんとする。彼等の祖先こそよい迷惑であらう。このやうに彼等は白髮もとく頭も眼鏡もあるひは內的の早老性も全く免るゝ能はざる宿世からの因緣約束であるかのやうに考へ、誤りし自分の生活法などをばチャンとたなにあげて置くのである。

今この說を地方から觀察すれば自分のきつい煙飲酒は遺傳だといふのと五十步百步である。然しこく己心さへあれば一生がいさかうした惡い遺傳から免れる事が出來るのではないか。また、このやうな遺傳說がからみ追及されるならば私などもとうの昔に白髪も生え頭髮も稀くなり、相當なはげも出來、近視乘遠視眼になつて居なければならないのである

明日の曆

新曆　十月四日
舊曆　九月二日

▲一白　內外ともに溫情に充てる日自然の發展あり▲二黑　心を締ざれば意外の邊よりもつれを生ずべし▲三碧　勤勉にして他に心を散らさずば吉日たるべし▲四綠　薄命の日にして何事にもあれ凶に走り易し▲五黃　根氣よく物に倦まざれば發達のいとぐちを開くべし▲六白　固く本分を守り慣れぬ事には才を出す勿れ▲七赤　內を虐にして外にのみ走るときは敗れあり▲八白　一步には一步より地盤を固めて漸次進むべし▲九紫　次第〱に幸福になり行く吉日急ぐなかれ

芳醇無比

白馬の雪

松本德一吟釀

電話（平）七五二

小說

死を超ゆる者

三上於菟吉作　布施平八郎畫

（102）

新らしい味方（三）

「ドビユッシだわね、勇さんがお好きだつたわ」

と妙子が思ひ出した様に言つた

樂しき蓄音機の合奏に心ゆくばかりにお互に面白く何心なく愉快に過ぎ語らひ合ひて思はずながら時間の經つのも忘れたやうについに晝飯すぎまで遊んで二人は歸つて行つた

とき子は其晩、間の歸宅を猛獸の洞に囚はれたものが獅子の歸りを恐れるやうな呪はしさで待ち設けてゐた。一度愛の假面を脫いで肉慾の權化としてのみの自分を現はして見せてしまつた後のあの男は今後もう以前のやうなうはべの矛しさゝへ見せる筈はない……けれどももうこれまでのやうに弱くばかりなつてゐるわけには行かない。戰へるだけはあの惡魔と戰つて行かう……さう言ふものゝこのかよわい心、どうしてあの重苦るしい壓迫が忍び得ようかといふ憂ひはいつまでも心を暗くした、死にも兼ねた身も絕ねざるうれひと苦るしみの末は？」

それは狂氣にでもなつてしまうに違ひない。

（だが、私は忍ばなければならないのだわ……そして待たなければ……和子さまの仰しやる通り弱いために心にもない罪をこの世でおかしてしまつた私の義務は苦るしみのうちに生きてゐて、此世でもう一度あの方にあつて、目付だけでゞもおわびを言はなければ濟まないのだわ……あゝ自分の身は今死ぬどころではないあの方に一目だけでもお會ひ申すまでは死んでも死に切れるものぢやない濟まなかつた、飛んでもない心得違ひであつたわ……）

しかし、暴虐な夫れはその晩歸らなかつた。殘してあつた書類を取りに來た秘書の話しに依ると、どうやら經濟上に一種の破綻が來たうへ、ある贈賄罪が問題になつて法律上の問題になりかけてさへゐるといふやうの話しであつた。とき子は耳を傾けはしなかつたがしかしなんとはなしに一種の心配なことを思ひ浮べたのである

「どうしたと言ふの、なにか變つたことでも出來たんですか」

とあの暴虐な間が今夜にかぎつて歸らないと言ふことに屹度何事か異變な大事が起つたに相違ない、神がこの邪魔な間に一槌を與へ給ふたのではなからうかたゞとちやないと、とき子は自分一人の心にある疑ひをはさんでよい〱間の末路が眼前に展開され來るやうな感じが起つて來た。秘書は大急ぎに、取るものもとりあへず間の机からいろ〱な用紙や帳簿を取出して頻りに見較べて居る樣子はたゞのお使ひではなかつたやうに思はれた間から重大な急な使命を負はされて彼は一生懸命にのめとりまなことなつて間の手帳を賴りに取調て居るからであつた。而して何やら心忙しく其客子には何等の落付きもなく、たゞきよときよととして眼つきで手帳の文字を消したり書いたり何事かこゝに一種の大なる秘密があるやうに其動作の不審はおのづと彼の態度に表れて居たのであつた。

愈々間が一大破綻の運命に到來したやうである

而して彼の贈賄罪と僞證罪が同時に暴露して今や法律上の大問題を引起さんとして居るやうであつた

錦秋の映畫戰線に堂々巨彈を連ね獨り角頭を拔く大陣容

平館最初の發聲映畫公開

日活オール・トーキー

蜂須賀大六

◇十四日ヨリ特別大興行

松竹提供
意氣昇る常勝將軍
阪東妻三郎
捲土重來の大活躍
宿命劍史　銀蛇　全
生必ずしも生ならず…死必ずしも死ならず冷れば氷山の如く熱すれば噴火の如く…死の彼方に人生の意義と更生を求めて華と散る情熱兒の血涙記ではある

海濱情詩
愛のゆく末　全
得意の情趣篇青春の小徑姉妹篇
純眞な濱の乙女の心情を描く笑と涙の殉情詩…栗島すみ子が濱に育つた娘として栗島すみ子獨特の境地を示す笑と涙に滿ちた詩情豐かなる一篇の海濱哀話ではある劇中安来節を取り入れ其の效果を一段と見せる近來の傑作

大日活會社が多大の費用と時日とを犧牲に製作せる本邦最初の
◇百二十パーセント級
發聲映畫正ニ完成
◇オールトーキー

キング連載
◎新妻四郎　主演
◎櫻井京子
◎楠英二郎
◇東北地方公開權は當館唯一
◇連續時代映畫
◇長江平之丞の卷

料金
特等　大六〇　小三〇
一等　大五〇　小二〇
普通　大四〇　小一〇

平館

特賣!!

たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領

鹽屋
醬油釀造元
山崎合名會社
電話一一〇番

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ　生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　西村屋藥舖　たはなし　三番

毛糸

本年は昨年より御安う御座います
毛糸見本帳進呈
一オンス　十五錢　十八錢　二十五錢
（中細・極細・スコッチ等……澤山入荷致しました

平町田町　藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

ぶらが染　元祿（げんろく）
發賣元　株式會社朋友商會
△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇
大阪賣店　平町五丁目角　山野邊藥局

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾皮膚病　市原三男
平町田町本通
市原醫院（入院隨時）
電話一一四番

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

清釀
造元
世界
吉
清水屋
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
小野晋平
電話六番

改正
片濱乘合自動車時間表

平發	五時三十分	六時三十分	八時	九時	十時	十一時	十二時二十分	一時五十分	三時	四時	五時二十分	六時三十分
江名發	五時三十分	七時	七時五十分	九時二十分	十時三十分	十一時五十分	一時	二時	三時三十分	四四時十分	五時四十分	六時四十分

平のりば　四丁目和泉屋前　新川町車庫
江名のりば　沖見屋　電話十四番
松屋
鈴木片濱自動車部
電話二一七
車庫呼出電話一四二

外科
一般外科
泌尿科
婦人科
醫學士　海津俊一
X光線科
院長　木下寅一
新妻由五郎
赤心堂病院
平町田町電四七五

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり就けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

內臟外科
骨關節外科
專門　藤本順
整形外科
產科
婦人科
院長　木村寅次郎
外科
婦人科
平町新川町
木村病院
電話二六四番

石城郡下で一ケ年 借金四百萬圓

好況時代の約五倍

一人當り金二圓

石城郡内で昨年から土地建物を擔保として借金した額を平税務署で調査したところによれば驚くなかれ四百萬圓に達し實に莫大なものであるがこれを郡民約二十萬人に對し割當れば一人平均二圓に上り大正七、八年の好況時代に比較すれば約五倍を増加しこの分で不景氣が續けば破産するものも相當續出するものと観られてゐる

石城の團体 事務所建築

負擔金も決定

石城郡内各公共團体長會議は九月三十日午前十時から平署わきの同團体事務所に於て開催、新事務所建築について協議した結果豫定の通り現平署裏に縣から下附された舊平署廳舍を移して建てることに決しこの工費三千四百餘圓は縣下附金並に各町村の寄附金を以て充てることに決定これが建築委員長に郡村長會側を代表して伏見平町長、各團体側を代表して安島郡農會長の兩氏が選ばれたが緊縮不景氣時代なので何時着工に至るか一寸見當がつかない、工費の割當は左の如し

△各團體側金千圓

△各町村側金千五百圓

△縣下附金九百三十七圓

伜を尋ねて返せと 主人に逆襲

前借を踏まれた主人は 平署へ説諭願ひ

東京市京橋區木挽町三ノ一むさし足袋店大橋榮太郎方では去月十日湯本町人事周旋業本村仁吉の仲介で平町下川原町長三郎長男三浦清(一四)を壯丁適令まで四百五十圓で雇入れ前金百圓を渡して清を雇入れたところ清は去る二十八日雇主人より叱言を言はれたのを氣にかけ其の儘行衛不明となつたが多分親元に隠れてゐるらしいから説諭の上歸京さして欲しいと平署に願ひ越して來たので平署では早ちに親元長三郎について調査すると清は來てゐず借りた百圓を返す處か入營な伜の行衛を不明にされては困るから先方様で尋ね出して貰ひたいとの事である

秋刀魚高値

俄かの不漁

石城地方におけるさんまは最近俄に不漁となり二日の如きは江名濱にたいて僅かに十五萬尾陸揚されたゞけで仙の濱は皆無であつたそれが爲めに値段も尻上りし中市場の如きは一尾高値二錢五厘安値二錢三厘で取引した

賣笑婦の内幕

見るに忍ひぬ苦痛

今日の社會問題は殆どすべてが人權問題に歸着するといふことが出來ませう。然るに日夜五萬人の娼妓が驚くべき人權蹂躙に會ひ、年々一萬人のあたらしい奴隷が入替はつて墮ゆべからざる凌辱を受けつゝあるに拘らず世人は平然として看過し社會の安寧のために當然の犠牲の様に考へてゐるといふ事は何たる事でせう

◇

彼女等娼妓は千圓千五百圓の金で所謂身賣をなし奴隷として樓主に飼はるゝものであることは事實であります。彼等には客撰擇の權利はなく彼等には何處に休養療養の自由がありますか、外出旅行の自由もなく、彼等は通信面接すら嚴重なる干渉の下に置かれてゐます

◇

彼等は最後の避難手段たる唯一の保全なる廢業の自由すら殆どないのです第一彼等は無智にして自らの權利を知りません。第二彼等は借金のある間は廢業の自由はないものと教へ込まれます、第三彼等の自由は樓主によつて拘束せられ最も嚴重に逃亡が防禦せられてゐます、若し娼妓取締規則に示さるゝが如く實際に彼等が自由に廢業し得らるゝならば公娼制度は瓦解するものでありませう

◇

家族の爲めに犠牲となつて身賣をした彼等(娼妓の大半)は斯くして毎日泣き暮らしてゐるのです客が少いと云つてはたゝられ客扱ひが下手だと云つては苛められ、病氣になつては碌な手當ても出來ず、どんなに苦しくても無理强ひに客を取らせられ親の死に目にも會へず、借金は必ず殖ゑるにきまつて居る、年期が明けても借金が返される人は一割もなく、神經衰弱ヒステリー、アルコール中毒、梅毒、淋病而して其上肺結核とに襲はれ取返しのつかぬ身體になつて了ひ自暴自棄に陥るのが通例で、眞面目に自らの身の行末を考へるものは遂にはいゝ加減な相手を見つけて情死するのであります

◇

公娼制度は之を社會の安寧の爲めとして婦女子を見殺しにするものであります。人間の身體が千圓千五百圓で賣買され不斷の奴隷市場が開かれてゐるこの事實を現代に於いて之を何と説明し得られませう。

平町地方で 空巣專門

子之助捕はる

石城郡内郷村高坂鈴木孝方脇を徘徊してゐる擧動不審の男を平署佐藤、大谷兩巡査が誰何すると矢庭に逃走を企てたので追跡取り押へ本署に引致取調の結果伊達郡大久保村字小池須田子之助(三五)といひ去る二十四日午後一時ごろ石城郡神谷村農家の留守中なるを奇貨とし忍び入つて簞笥から現金十一圓六十圓を窃取逃走した外更に二十六、七の連日に亘り平町を中心に炭礦その他で數件の賊を働いたことを自白した

品物で拜借して 質に入れて喰ふ

誠に巧妙な詐欺手段で 平署も手古摺る

石城郡磐崎村字藤原居住北海道札幌市生れ朝倉千代(三九)は最近同村内の質店に足繁く出入し新しい反物を多數入質するので平署刑事が怪しと睨みそれとなく様子を探ると果せるかな同人は平町字堂の前呉服商白木源太郎方から月賦販賣をなすとて九月中數回に亘り反物數十點を後金にて仕入れ事實は販賣をせずこれを磐崎村藤原質店小畑寅之助五軒の質屋に入質してゐたものでその入質額は約五百圓に上つてゐるので平署に同人を引致せんとした所逃走したので同人の行衛を捜査中であるが現在のところ月賦販賣をした形式を取り月賦額は仕入先に納めてゐるので犯罪構成上に疑問を與つてゐる同人は某職工の妻で斯の如く巧妙な遣り口は女に似合はず裏面に何者かが敎唆せしめたものがあるのではないかと見られてゐる

磐城高女運動

縣立磐城高等女學校秋季大運動會は來る十七日午前八時から同校グランドに催される

平署員異動

駐在の新配置

平警察署では新井署長赴任以來能率増進と綱紀粛正を主眼として内外に對すべくいろ/\研究の結果先づ第一着として管内巡査の詰替へを行ふに決定、卅日付で左の如く大異動を斷行した

永戸駐在大友巡査、好間請願金平巡査、綴駐在江島巡査、好間駐在小島巡査、藤原請願金田巡査、高坂請願高子巡査、竹ノ内請願高橋巡査、小田請願櫻井巡査、磐崎駐在瀬戸巡査、平窪駐在眞弓巡査、小名濱駐在鈴木巡査、夏井駐在石井巡査、赤井駐在宗象巡査、湯本駐在荒井巡査

豆腐で喧嘩

賣上歩合説諭願

平町鎌田町坂本義方同居人村上治作(五二)は平職業紹介所の周旋で九月十六日平町古鍛治町呉帶豆腐店の賣子となつたが、今回治作は郷里の宮城縣に歸る事になつたので約束賣上げ歩合四圓三十一錢の拂戻しを請求した處主人は三圓一錢しか支拂はないから殘金の一圓三十錢を支拂ふ様説諭して貰ひたいと三十日平署に願ひ出た

平町の秋季 清潔法日割

平町にたける秋季清潔法は左の如く六日、七日兩日に施行される

△六日　三丁目、四丁目、五丁目、立町、正月町、彌宜町、鎌田町、五色町、下川原、堤の内、月見町、新川町、佃町、南白銀町、大工町、仲間町、九品寺前、平抱、番匠町、鷹匠町、柳町、四軒町、梅香町、大町、南町、小太郎町、十五丁目、田町

△七日　新町、長橋町、研町、古鍛治町、紺屋町、材木町、堂の前、鍛治町、田中、中町、一丁目、二丁目、搔槌小路、舊城跡、六間門、杉平、櫻町、北目町、胡摩澤、八幡小路、揚土、道匠小路、高月、久保町、七軒町、南町、十五町目、田町

人命救助

知事から表彰さる

石城郡豐間村字八幡漁夫鈴木兼吉は四男忠と共に去る十四日午後二時ごろ豐間港を距る三町餘の沖合にたいて漁業中激浪のため轉覆し危く兩名とも溺死せんとしたる折柄航行中の新潟縣西蒲原郡浦濱村の漁夫阿部彦次郎外二十七名のために漸く救助されたがこの二十八名は近く小柳本縣知事より人命救助で表彰されることになつた

林間に紅葉を焚く 川前の勝景地

白岩の松茸狩りと 觀楓團の準備

石城郡川前村溪谷は東北屈指の勝景地として知られてゐるが、四季を通じて取わけ眺望が一段と良くなるのは秋、木の葉が紅葉する頃である。夏井溪谷は磐越東線川前、小川郷驛間が最も景色が勝れて居り、約八里以上に至つてゐる雄大なる大森林と清流のある勝地であるため車窓から列車の乘客がこの勝地を探勝できるので有名である、この勝地も日一日と紅葉する木の葉が増して來たが緑間に眞紅に燃える紅葉が點綴し而もそれが鮎の棲む清流に反映するところは到底筆舌には言ひ現す事が出ない程である、平町地方では不景氣風は吹きまくつてゐるものゝ白岩の松茸狩、夏井溪谷の紅葉狩りと秋の行樂のプログラムを造る噂で持ち切つてゐるが氣早の風流人は最早杖を曳いてゐる有様、今月の第二、第三日曜日ころには多の觀楓團体で賑ふ事であらうと

平町遙拜式

子鍬倉社頭で

平町は二日神宮式年遷宮祭につき各官衙銀行會社各學校は休業し全町國旗を掲揚し午後八時から縣社子鍬倉神社々頭で官民合同の遙拜式を擧行した各學校は午前八時講堂に各祝賀の式を擧げた

平署の即決處分

何れも三日言渡

平警察署では三日左の如き即決科料を言渡したが何れも交通取締違反である

□内郷村綴魚行商人高坂春吉(五五)は去月廿六日朝平町四丁目道路に魚籠を置き交通の妨害をなして貳圓

□好間村上好間荷馬車挽業石塚藤七(六七)は二十六日平町五丁目吉田鐵工場前に荷馬車を緒留して二圓

□大野村山小屋農栗野德三郎(四四)は廿八日平町四丁目地内道路に馬を駐め通行を妨害して二圓

□好間村下好間荷馬車挽業阿部寅三(四八)は二十七日平町大館地内に於て馭者なき荷馬車に乘つて二圓

□草野村下神谷荷馬車挽小島菊一(三三)は廿八日高久村牛轉地内に於て同記同様の罷で二圓

□内郷村大字宮魚行商人蒲生廣作(五七)は廿六日平町四丁目道路に魚籠を置き二圓

□平町南町物品販賣業安積英一(三八)は廿五日夜内郷村地内に於て無燈火の自轉車に乘つて二圓

□平町一丁目金物商關原新一郎(四二)は廿五日自宅前の通路に空箱を置き交通を妨害して二圓

□紺屋町石工山野邊大五郎(四二)は廿六日自宅前の道路に石材をたいて二圓

□平町仲町物商行商人池田貞次(三九)は二十四日内郷村地内を無燈火の自轉車にのつて二圓

□平町長橋町自動車運轉手吉田昇(二五)は廿八日午後六時研町地方を夜間燈火を用ひず自動車を運轉して二圓

□長橋町大工白石寅次郎(四〇)は廿五日内郷村御厩地内を無燈火の自轉車に乘つて二圓

□平町四丁目果實商片寄啓太郎(三七)は廿八日自宅前道路に梨箱を陳列して二圓

洋傘を掛けんとし 女房、机と心中

内郷村の騷ぎ

石城郡内郷村大字高坂居住安達郡白岩村生れ安吉の妻渡邊イネ(四四)は去る一日午後一時ごろ自宅座敷に於て傘かけ釘に洋傘を掛けべく机を踏み臺とし洋傘をかけ下りんとする際誤つて右足を外し机が轉倒してイネの下腹を强打し爲めに腸出血を起し手當せるも効なく五時ころ死亡し平署七海部長検死の上死体は夫に引渡したが有り勝ちのことで珍らしい傷死である

桃品評會授賞 石城郡平窪村平窪果樹組合の桃立毛品評會褒賞授與式は三日午前十時から小學校に擧行郡農會より大山、柴田兩技手出席の筈

平千秋會 菊花展

今月末に開催

平町千秋會支部では例年菊花大品評會を開催して來たが第三回菊花大品評會は十月末に平町元商業學校に於て開催する豫定で目下準備を進めてゐるが此の菊花品評會は平町年中行事の一つに數へられて居り出品物も毎年増加する一方なので今年は前年以上賑ふものと豫測されてゐる

風呂敷の賊

實は甘藷の犯人

石城郡勿來町大字酒井原に於て大風呂敷を背負てゆく男を植田署員が發見取調べた所右は宮城縣生れ笠原秀吉(五三)と云ひ甘藷五貫匁其他の盜品を持參してゐるので直に引致したが甘藷泥棒の外七件の窃盜を自白した

湯本區議選擧 終る

當選者の氏名

石城郡湯本町大字湯本區會議員改選は猛烈なる競爭が續けられたが一日同町役場にたいて選擧終了の結果左の如く當選したなほ有權者總數二千三百七十九票棄權百二十三票無効二十八票死亡失格四十八有効投票總數二千八十票

須藤熊雄、西原末吉、牛田目嘉造、高橋勇一郎、若松收一、鯨岡止祐、渡邊渡、鍋代富彌、金成嘉吉　若松幸平、後藤利吉郎、佐藤德兵衛

記者募集

中學校三學年修業程度の學力ある眞面目にして身体强健なる青年記者二名を募集す(但し平町在住者に限る、保證人を要す)希望者履歴書持參本人午前中に來社あれ委細面談電話、書信の交渉絶對謝絶

營業部員

年齢二十二歳以上、身体强健にして新聞業務に趣味を有する眞面目なる營業部員一名を募集す希望者は履歴書持參本人午前中來社あれ、給料その他委細面談

磐城新聞社

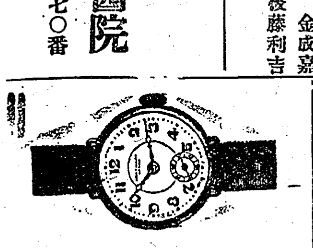
平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

紺屋高尾で名高き
浪界第一の人氣者
蓄音器でおなじみの
篠田實師一行
近日中平町某館ニ公演

元氣なお子さん方に
趣味と經濟の洋服
素的なブラウス
丈夫なスカート
ブラウス　二圓六十錢ヨリ
スカート　一圓二十錢ヨリ
平四
ツルヤ
電一一四〇

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は
三四三番
サシミ

素晴しい好評!!
婦人世界推選（圖案ハ全國一流ノ大家）
壹萬五千圓大懸賞付（空クヂナシ）
足利本銘仙 近代調銘仙大賣出し
婦女界推奨（名作カラ暗示ヲ得タ）
大懸賞々品付（空クヂナシ）
八王子高級 文藝銘仙大賣出し
特長
一、何レモ最高級ノ糸最高級ノ染料　生地ハシナヤカデ非常ニ丈夫デス
一、藝術味溢レル柄行揃ヒニテ秋流行ノ先驅ヲナス逸品デス
一、柄ガ良ク、巾ハ充分デ、丈ガ長ク、而シテ廉價ナ上ニ興味深ク大懸賞景品付デス
平町カジ町
吉田屋呉服店
電壹貳壹番
詳細ハ店内並ニ婦女界婦人世界十月號ニ發表シテ御座イマス



時計蓄音器の修理
御用命は
高橋時計工作所
平町土橋通り
大々的勉强示時正確